

## エジプトの文化財保存修復・管理の学際的研究

研究代表者 近藤 二郎  
(文学学術院 教授)

### 1. 研究課題

早稲田大学エジプト学研究所を中心とする調査は、ユネスコの世界遺産として登録されているメンフィス・ネクロポリスおよびテーベ・ネクロポリスで実施されてきた。これらの遺跡は、その重要性にもかかわらず、様々な劣化の問題が表面化しつつあり、整備計画の必要性が高まっている。本研究はこれら2カ所の遺跡をはじめとするエジプトの文化財保存修復および管理の研究を目的とし、それに向けた保存科学、考古学、建築史学、地質学、観光学などさまざまな分野から学際的に調査を行う。このような問題意識のもとに実施した2013年度の調査研究成果を報告する。

### 2. 主な研究成果

#### (1) 太陽の船調査

太陽の船プロジェクトは、クフ王第2の船の発掘、組み立てを目的としている。2013年3月27・28日のサンプル分析の総括ワークショップで決定された方針に従い、2013年度は、主な活動として、①現場施設の整備、②部材の取り上げの2つに従事した。

#### ①現場施設の整備

部材の本格的な取り上げ作業の実施に先立ち、調査環境の整備を行った。作業用のクレーン、ならびに取り上げ後の部材に強化処理を行うための保存処理場デザインを決定し、施工を行った。

#### ②部材の取り上げ

部材の本格的な取り上げ作業は、2013年6月に開始した。6月下旬から始まったモルシ政権打倒運動に伴う治安悪化により、プロジェクトは一時ストップしたものの、宿舍と現場周辺の治安が回復したため、2013年9月以降、現在も作業を続けている。

詳細な記録を目的として、取り上げ時には、写真撮影、三次元測量、手測量というプロセスを踏むこととなる。しかし、部材の強度は予想以上に落ちており、ピット中の作業においては、和紙を用いたフェイスングで一時的な補強を行わなければならない。取り上げ後の部材は、ピット内の湿度85%前後の環境から湿度60%前後の環境へと徐々に適応させ、安定化した後に



図1 大型部材の取り上げ風景

強化処理を行った。

(2) ルクソール西岸・アル＝コーカ地区調査

2013年12月～2014年1月にかけて行われたルクソール西岸(ネクロポリス・テーベ)アル＝コーカ地区での調査は、2007年12月の初回調査から第7次を数える。今回の調査では、新王国時代第18王朝アメンヘテプ3世治世末期の高官ウセルハトの墓であるテーベ第47号墓とその周辺に関する再調査の一環として、①テーベ第47号墓前庭部、②テーベ第47号墓前室の2箇所においてクリーニングを実施した。



図2 調査区遠景(中央に見えるのがコーカ第1号墓の入口)

①テーベ第47号墓前庭部

テーベ第47号墓前庭部のクリーニングでは、特に南側、東側に堆積した砂礫の除去を行った。南側での作業の結果、未完成墓(コーカ第1号墓)に通じる入口が発見された。内部を精査した結果、この墓は更に別の墓(コーカ第2号墓)と内部で繋がっていることが判明した。これは、壁画の保存状態の極めて良好な新王国時代第19王朝頃に年代づけられる墓で、世界的に報道された。前室の壁面に残された記述から、コーカ第2号墓はラメセス朝時代の高官コンスウエムヘブに帰属することが明らかになった。



図3 新たに発見されたコンスウエムヘブ墓の壁画

②テーベ第47号墓前室

テーベ第47号墓前室のクリーニングは、主に北側を対象として行った。堆積した砂礫を除去した後、前室内部の平面形態、断面形態を把握するための測量調査を完了させた。

3. 共同研究者

吉村作治(国際学術院・名誉教授)

中川武(理工学術院・教授)

長谷川奏(日本学術振興会カイロ連絡センター長、総合研究機構・客員教授)

青木繁夫(サイバー大学・教授)

西本真一(サイバー大学・教授) 柏木裕之(サイバー大学・客員教授)

河合望（高等研究所・准教授） 馬場匡浩（総合研究機構・助教）  
高橋寿光（総合研究機構・招聘研究員） 矢澤健（総合研究機構・招聘研究員）

#### 4. 研究業績

##### 4.1 学術論文・報告

黒河内宏昌、吉村作治 2014 年 「2013 年 太陽の船プロジェクト 活動報告」『エジプト学研究』第 20 号、pp.5-11.

近藤二郎、吉村作治他 2014 年 「第 6 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」『エジプト学研究』第 20 号、pp.43-57.

吉村作治、矢澤健、近藤二郎他 2014 年 「エジプト ダハシュール北遺跡発掘調査報告—第 19 次発掘調査—」『エジプト学研究』第 20 号、pp.13-42.

吉村作治、河合望、近藤二郎他 2013 年 『エジプト学研究別冊』第 16 号：アブ・シール南丘陵遺跡第 21 次・第 22 次調査概報.

吉村作治他 2013 年 『エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から観た遺跡整備計画の学際的研究報告集』第 2 号.

Masahiro Baba and Sakuji Yoshimura 2014 “Recent Discoveries of intact tombs at Dahshur North: Burial customs of the Middle and New Kingdoms”, Proceedings of the Tenth International Congress of Egyptologists, in press.

Ahmed G. Fahmy, Nozomu Kawai, Sakuji Yoshimura 2014 “Archaeobotany of Two Middle Kingdom Cult Chambers at North Saqqara, Egypt”, in Stevens, C.J. et al. (eds.), The Archaeology of African Plant Use, London.

Sakuji Yoshimura, Kurokochi Hiromasa 2013 “Research report: Brief report of the project of the second boat of King Khufu,” , in Journal of Ancient Egyptian Interconnections 5, pp.85-89.

##### 4.2 学会発表

河合望 「アブ・シール南丘陵遺跡の岩窟遺構から出土したライオン女神像について」、日本オリエント学会第 55 回大会、京都外国語大学、2013 年 10 月 27 日.

近藤二郎 「アメンヘテプ 3 世治世末期の岩窟墓のレリーフ装飾について」、日本オリエント学会第 55 回大会、京都外国語大学、2013 年 10 月 27 日.

矢澤健、吉村作治 「エジプト・ダハシュール北遺跡出土の新王国時代の黒色木棺について」、日本オリエント学会第 55 回大会、京都外国語大学、2013 年 10 月 27 日.

菊地敬夫 「古代エジプト壁画資料のデジタル化—アムドゥアト書の史料化を例として」、日本オリエント学会第 55 回大会、京都外国語大学、2013 年 10 月 27 日.

近藤二郎 「ウセルハト墓 (TT.47)を掘る：エジプト、ルクソール西岸アル=コーカ遺跡第 6 次調査 (2012-2013 年)」、平成 25 年度 考古学が語る古代オリエント、第 20 回西アジア発掘調査報告会、日本西アジア考古学会、古代オリエント博物館、2013 年 3 月 23 日.

吉村作治、近藤二郎、西坂朗子、高橋寿光 「アメンヘテプ 3 世王墓第 3 期壁画保存修復プロジェクト」、日本オリエント学会第 55 回大会、京都外国語大学、2013 年 10 月 27 日.

#### 4.3 学会および社会的活動

・エジプト・フォーラム 22 『太陽の船プロジェクト再開～エジプトの争乱を乗り越えて～』

2013年11月10日(日)

・エンターテイメントから見るエジプト文明  
第2回『今甦る「ピラミッド再現計画」』

2014年3月24日(月)

#### 5. 研究活動の課題と展望

2011年のエジプト革命以降、エジプトは政治的社会的混乱が続き、文化財の被害は計り知れないものがある。現に、2011年の2月以降現在に至るまで、エジプト全土で遺跡や博物館の盗掘・破壊が起きており、憂うべき現状にある。こうした状況において、「エジプトの文化財保存修復と管理をテーマに推し進める本プロジェクトは極めて重要であり、遺跡の整備を通じてエジプト人自身が自国の文化と歴史に誇りを持ち、その価値を認識することが、遺跡の盗掘・破壊を食い止める最大の武器だからである。

幸いエジプトの治安も徐々に安定しつつあり、2014年ではこれまで治安上の理由から凍結していたアブ・シール南丘陵遺跡およびダハシュール北遺跡の調査と保存修復作業を再開したい。また、ユネスコとの合同プロジェクトであるアメンヘテプ3世王墓壁画保存修復プロジェクトの作業も再開したいと考えている。



図4 エジプト・フォーラム 22 開催風景